

災害に負けない地域の力



みなさんは、自分の住む地域について考えたことがありますか。木造住宅密集地域である上高田には、防災性の向上を中心に、まちを良くするための活動を長年続けている団体があります。「上高田まちづくりの会」の方々に話を聞きました。

※近所同士で助け合う仕組みづくりを企画

現在、これまでの成果を取りまとめで、区へ提案しようと準備を進めています。それに向けた私たちの取り組みとして、小さなイベントを考えています。

災害時にご近所同士で助け合うためにも、近所の人と知り合い、話し合う機会をつくりたい。ですが、「防災」や「訓練」を前面に出すと、難しく感じる方もいると思うんです。子どもや外国人の方も含め、誰でも気軽に参加できるような催しにするため、知恵を出し合っているところです。



▲この日はプロジェクトチームの集まり。会員は30人を超え、さまざまなまちの情報が集まります

※地元住民だからこそできた成果

大妻中野中学校・高等学校の北側の通りは地下水路で、元は暗かったんです。そこで、校舎の建て替えに当たって、近隣住民と学校が話し合う協議会に私たちの会員も参加して、改善に向けたお願いをしました。その結果、緊急時の通用門の増設の他、隅切りやフェンスの改良などにもご配慮をいただくことができました。通りが明るくなりましたね。

その他にも、関係者と話し合っって万年塀をフェンスに替えた所、電柱の移設を果たし消防車が通れるようになった所もあるんですよ。

この電柱、昔は私が立っているこの辺りにあったんです



道が広がり小型の消防車が通れるように



隅切りができて見通しが良くなりました



※子どもたちにまちを知ってもら

白桜小学校のPTAに協力いただいて、2年ほど前まで毎年、「親子まちあるき」を行ってききました。地震が起きた時のことなどを考えながら、親子で一緒にまちを歩いて、気付いたことを地図にまとめて話し合います。過去に参加した中学生が、お手伝いとして協力してくれたこともあるんですよ。

また、白桜小学校では、3年生を対象とした安全教室も行っています。今年も、防犯をテーマに、いざという時に備えて子どもたちと一緒にまちの安全な所・危険な所などを考えました。



ここ、あぶなかった // 〴〵ここも〴〵



班ごとに発表も行います。参加した保護者から、「まちあるき後は会話が弾むようになった」との声がありました



▲会長の赤木高次郎さん

親子まちあるきでは、まちの歴史や文化についてもお話しています。参加した子どもからは、「避難方法などについて家族と話し合う必要を感じた」と頼もしい感想をいただきました。



▲会としてもまちあるきを行っています。この日は地下水路と路地がテーマ

※今後も当事者として活動



▲地域のみなさんが参加できる講演会なども行っています

行政をただ頼るのではなく、私たち住民が率先して取り組み、行政を巻き込んでいくことが大切だと思います。例えば、生活実感を取り入れた議論やコミュニティづくりは、私たちだからこそできること。

この地域には、まちを良くするための団体や取り組みが他にもたくさんあるんですよ。

今後も、地域のみなさんと協力しながら、自立意識を持って活動を続けていきたいと思っています。親子まちあるきも継続できたらうれしいですね。



若い世代の声

会のアドバイザーである早稲田大学の先生の誘いで、学生仲間と一緒に参加しました。活動を通して、住民目線の取り組みや話し合いの過程の大切さを実感しました。

この4月からは地元の福井で就職します。ここでも地域活動を続け、会での経験を生かして地域のつながりを広げていけたら、と思っているんですよ。

中野での経験を福井でも生かします



▲国松希位太さん (3月まで上高田在住で学生会員)

☆地域活動の情報は、区民活動センターで確認できます



▲区民活動センターの施設案内